

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 8月稚魚調査 速報

●実施状況

令和6年8月5日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は30.8～34.8℃であった。調査地点の風はお台場海浜公園では無風であったが、森ヶ崎の鼻と葛西人工渚では東寄りの風、風速3.2～3.8mであった。調査当日は大潮で、干潮は11時41分、満潮は18時15分であった(気象庁のデータ)。また、全地点で赤潮が発生していた。

全地点において、ビリンゴ、マハゼ、コノシロ、ギマ、マゴチが出現した。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	8:56-10:15	10:38-11:50	12:30-14:00
水温(℃)	29.4	31.5	35.3
塩分(-)	20.1	15.5	14.2
透視度(cm)	23.0	24.5	16.5
DO(mg/L)	14.0	11.5	8.7
DO飽和度(%)	205.6	169.9	135.9
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	8.6	8.2	8.4
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	赤潮が発生していた。 管理棟東側に海水浴用フェンスが設置されており、フェンス手前から管理棟西側まで少し西にずらして曳網した。 砂が入れ替えられており、白い細砂になっていた。	赤潮が発生していた。	赤潮が発生していた。

●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	コノシロ(m)	トウゴロウイワシ(m)	カライワシ(c)
	ビリンゴ(m)	ヒメハゼ(+)	チチブ属(c)
	ハゼ科(c)	マゴチ(+)	ビリンゴ(+)
	マハゼ(c)	ビリンゴ(+)	マハゼ(+)
	トウゴロウイワシ(c)	チクゼンハゼ(r)	シモフリシマハゼ(+)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	ニッポンドロソコエビ(r)	ユビナガスジエビ(m)
	アキアミ(r)	エビジャコ属(r)	エビジャコ属(m)
	イシガニ(r)	シラタエビ(r)	シラタエビ(+)
備考	他にチチブ属、マゴチ、ギマ、シラタエビ等が採集された。	他にウグイ属、マハゼ、エドハゼ、ギマが採集された。	他にコトヒキ、ギマ、ヒモハゼ、クーマ目等が採集された。

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

コノシロ

内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。体長 10 cm 前後のものはコハダと呼ばれる。

ハゼ科(仔魚)

着底前のハゼ科の仔魚は腹部に浮力調整のための油球がある。東京湾奥部で 6~8 月にかけて多数出現するハゼ科仔魚はチチブ属であることが多く、尾柄に黒色素胞が並ぶことが特徴。

トウゴロウイワシ(仔魚)

イワシよりもボラに近い仲間。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸で普通に見られる。産卵期は夏で、秋にかけて仔魚が東京湾全域に出現する。

チチブ属

ずんぐりとしたハゼ科の仲間。雑食性で、転石やカキ殻の間等に多く見られる。東京湾では 6~9 月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等で孵化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。

イシガニ

房総半島から九州に分布するワタリガニの仲間。ハサミ脚は、左右で使用用途が違う。片方は食物を粉砕するのに使用するため、奥歯のような突起が発達する。もう片方は鋭く、つまむのに適した形をしている。今回、稚魚調査では 9 年ぶりの採取となった。

ギマ

カワハギに近い仲間。腹にあるトゲは硬く鋭いため注意が必要。干潟域等の浅所で、夏から秋にかけて 1~5cm ほどの幼魚が出現する。平成 7 年頃から東京湾で確認されることが多くなった。

森ヶ崎の鼻 採取試料



羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

ヒメハゼ

内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は5月から9月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。下顎が上顎より突出しているのが本種の特徴。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水～淡水域に移動する。産卵期は早春。

ウグイ属

コイ科では珍しく降海するものを含むグループで、東京湾にはマルタと降海型のウグイが出現する。産卵期の成魚は赤黒の鮮やかな婚姻色に体表の黒線がマルタは1本、ウグイは2本であることで区別できる。

マハゼ

河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏にオスが河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中にメスが産卵する。

マゴチ

内湾や河口域の水深30m以浅の砂泥底に生息する。産卵期は4～7月。成長するにつれて徐々に深場へと移動する。肉食性で、小魚等を食べる。

マルタ

汽水域に生息する。雑食性で、50cmほどまで成長する。本地点は本種を含めウグイ属がよく見られる。この個体は調査地点に打ち上げられていた死骸。

【調査対象外】

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

カライワシ

① ② ③

仔魚(①)レプトケファルス幼生)から成長の段階毎に個体を並べた。東京湾では内湾の干潟域や外湾の砂浜海岸で体長3cmほどの稚魚(②)が7~9月に見られることが多い。成長すると体長75cmほどになる。

ヒモハゼ(仔魚)

体はミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。成魚で全長4cmほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。産卵期は初夏。

シモフリシマハゼ

河口汽水域等の砂泥底にあるカキ殻や石の間に棲む。産卵期は6、7月頃。頭部の側面から腹側に掛けて霜が降ったように白点が散っており、それが名前の由来となっている。

コトヒキ

東京湾では、湾奥から外湾にかけての沿岸浅所や河口域で見られる。産卵期は5~10月。浮袋を使ってぐうぐうという音を出し、これがコトヒキ(琴引)の名前の由来となっている。

ユビナガスジェビ

内湾域の転石場や護岸に多く生息する。体長4cmほどのテナガエビ科の仲間。体全体に色素が分布し、生きている間は褐色に見える個体が多い。額角(がっかく)はほぼ水平。今回、抱卵個体が採取された。

クーマ目

長い尾節が特徴の小型甲殻類で、体長は7mmほど。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。